

深 浦

青森市の青森南高校の生徒12人が17、18日に深浦町の十二湖を訪れ、今年、世界自然遺産登録30周年の節目を迎える白神山地の動

植物や自然環境の魅力を地元ガイドから教わった。生徒たちはガイド内容の英訳に取り組み、外国人観光客向けリーフレットも製作する予定。
(三國谷啓)

地元ガイドの米内山さん（左端）から十二湖周辺の動植物の説明を受ける青森南高生ら 18日



青南高生12人 十二湖訪問

白神の魅力外国人にも

地元ガイド受講 英訳実践へ

昨年度、世界遺産について学び、その課題や解決策を持続可能な開発目標（SDGs）と結びつけて考える探究型コンテスト「世界遺産×SDGs チャレンジ！」（NPO法人世界遺産アカデミーなど主催）のプレゼンテーション部門で、同

校の山崎詠弓さんと千葉想代子さん（ともに現3年生）が優秀賞を受賞した。

その企画の一つ「英語でGUIDE」を実践するため、初日は2人を含む生徒有志12人が、青森駅からリゾート列車「リゾートしらかみ」に乗り、車窓や停車する名勝地の風景を撮影しながら深浦町に移動し、アオーネ白神十二湖に宿泊。

2日目は、十二湖森の会の地元ガイド米内山和

代さんから、自然環境や動植物に関するガイドを受けながら、青池周辺を約2時間かけ散策。生徒たちはノートやスマートフォンにメモを取ったり、ビデオカメラで撮影したりして、白神の豊かな自然に理解を深めた。

深浦町出身の山崎さんは「自分で調べるだけでは分からなかった植物の葉っぱのことなどを知ることができた。外国の方にすきな景色の魅力を知ってもらえたら、深浦に生まれたことに誇りが持てる気がする」と話す。千葉さんは「自分たちの感じたことを外国の方々に、より分かりやすく伝えたい」と今後の活動に意欲を見せた。

生徒たちは、外国語指導助手（ALT）の協力も得ながら英語によるガイドを完成させ、8月に再び十二湖を訪れ、実際にガイド内容が外国人に通じるか、試してみる。

東奥日報 2023年（令和5年）6月26日（月）掲載
この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。